

3-4. NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク

(岩手県岩手郡雫石町を中心とする岩手山周辺地域)

(1) アドバイザー派遣申請の背景

東北の名峰「岩手山」は、南部富士と呼ばれる秀麗な火山峰で、山麓の広がる牧場や水田農村地帯から大きく雄大に望むことがきる岩手県のランドマークでもある。また、激しい火山活動を繰り返しながら成長した巨大な成層火山であることから、変化に富んだ火山地形が見られる。更に、岩手山を源とする葛根田川（北上川の支流）の源流域から秋田駒ヶ岳、八幡平にかけての山地には、世界遺産「白神山地のブナ林」にも匹敵する広大な天然林域が広がっている。岩手山は、日本を代表する美しい名峰であり、山岳としての雄大な眺望や大自然とあわせて、その山麓には緑豊かな農村地帯が広がっているにもかかわらず、観光といえば、冬のスキーや登山・ハイキング、山岳ドライブが主流で、観光客の減少傾向が続いている。そのような状況の中、岩手山の南麓地域では、小岩井農場でのバスツアー（小岩井農場物語）をはじめ、農業体験を取り入れた教育旅行等グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、ニューツーリズムの動きが見られるようになり、NPO や地域住民、学識経験者が連携して、岩手山の美しい眺望や秋田駒ヶ岳、岩手山、八幡平と連なる火山性山岳とその山麓に広がる農村地帯の生物多様性豊かな自然環境を保全し、活用した環境保全型の観光により地域の活性化を進めたいという活動が始まっている。

(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 24 年 11 月 24 日（土）～平成 24 年 11 月 25 日（日）
場 所	雫石町及び岩手山周辺地域
ア ド バ イ ザ ー	株式会社マインドシェア 観光地域づくりプロデューサー 坂元 英俊氏 鹿兒島大学 名誉教授 大木 公彦氏
参 加 者	【講演（セミナー）】 しずくいし・いきいき暮らしネットワークの役員、会員等、環岩手山ニューツーリズム研究会の会員（大学教授、NPO 関係者等、全国名峰景観ツーリズムネットワークの役員、会員等、地元の観光協会、地元 NPO、自治体関係者等 計 39 名 【戦略会議】 計 17 名
スケジュール・方法	【1 日目】 大木氏、坂元氏と事前打ち合せ・情報交流 【2 日目】 現地視察（主に岩手山南麓）、地域の状況や取組についての説明、講演、意見交流会、終了後、雫石町内での戦略会議に大木氏、坂元氏が参加 ※なお、25 日の講演に先立ち、坂元氏は 23 日に磐梯山地域で開催されたエコツーリズムのシンポジウムに参加、24 日に裏磐梯でのエコツーリズムの取組について視察を実施。



(3) アドバイスの内容

坂元英俊先生からのアドバイスは、25日の講演や事前打ち合せ、戦略会議を通じて得ることができた。

25日の講演では、ホームページの内容を説明資料として、阿蘇で取り組まれているカルデラツーリズム等が紹介され、阿蘇地域で展開されているグリーン・ツーリズム、エコツーリズム、タウンツーリズムをうまく組み合わせた多種多様なツアープログラムを活かした「阿蘇観光博覧会」を事例に、観光業者でなく地域住民が主体となって観光による地域振興を進めることが、これからの岩手山周辺でエコツーリズムを進めるにあたって求められているという内容であった。

タウンツーリズムについては、寂れた阿蘇の商店街が訪れる観光客のために、通りに木を植えて緑豊かな魅力ある環境（景観等）に変身・再生させた場所（通り）がタウンツーリズムの人気のスポットになっているところを事例として紹介されたが、これについてもホームページでの動画等で情報発信がなされており、地域情報発信の重要性について話を聞くことができた。

大木公彦先生からのアドバイスも、25日の講演や事前打ち合せ、戦略会議を通じて得ることができた。

25日の講演では、火山学者・地質学者らしく、日本列島が世界的に見ても火山が多い国で、太平洋プレートと火山の生成を含め、火山の恵み等について紹介がなされ、東日本大震災等の教訓からの地学の重要性について話が聞けた。

また、桜島の自然等を中心にした鹿児島県検定等地域紹介や子どもたちへの郷土紹介、住民全てが地域の案内人になること等、今自分たちが暮らしている大地の成り立ちを知って、そこに暮らす人全員が地域を紹介できるようになることが重要という内容であったが、大木先生は宮沢賢治が好きなので、宮沢賢治に係る話等、岩手山周辺でツーリズムを進めるにあたり、賢治の足跡や地学の話等を取り入れたい内容も多くあった。



坂元先生同行の裏磐梯視察



坂元先生の事例紹介



岩手山麓での活動紹介を聞く坂元先生と大木先生



坂元先生と大木先生を交えての意見交流会

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

九州が観光地づくりや観光振興において、先進地であることを改めて実感することができた。

岩手山周辺でのエコツーリズムをはじめ、観光振興の進め方と比べ、九州での観光振興は、県の予算からみても大きく差があり、九州では観光に対する県民、住民の考え方や観光関係者の覚悟や意気込みも違うと感じた。

同じ日本でも、東北から見れば、九州は遠い南の国、気候風土も人の気質も違い、暖かく雪のあまり降らない九州、人の手が山奥まで入り人工林が多い九州、台風の襲来が多く豪雨災害が多い九州、広大な草原の広がる阿蘇、海（錦江湾）に浮かび活発な火山噴火を続ける桜島等、東北地方とは別の環境の九州で展開されているニューツーリズムの動きは、ダイナミックかつ先進的で、参加者及び関係者にはかなりの刺激になった。

坂元先生の話からは、地域観光は、個々の人や施設が来訪者に観光サービスを提供するだけのスタイルは時代遅れになっていて、地域住民が主体的に活動し、地域をよくしよう、魅力的にしようという活動を通じ、地域全体として観光サービスを展開し、情報発信を行う必要があるという認識を共有することができた。

また、大木先生の話から、これまで、観光と無縁のように思われていた地質学者や火山学者等の学識者が観光振興の担い手になるということを知ることとなった。とりわけ、「地学」は防災的な観点もさることながら、地域を知る上で、また、地域を紹介する上で必要不可欠であり、ジオパークが脚光を浴びている今日、岩手山地域においても重要な視点であることを認識することになった。

そして、岩手山についても、秋田駒ヶ岳や八幡平とともに、火山という観点からその自然の魅力や資源性を再認識することができ、これまでは登山の対象、あるいは、ふるさとの風景をなす大きな山としての認識から、名峰火山「岩手山」について、色々な角度からの紹介や資源活用ができるという期待感を持つことができるようになり、そのためにも、今後、エコツアー等で岩手山やその周辺地域を紹介する場合、より地形学、地質学的な知見や情報の収集が必要と感じさせた。

●今後の期待される効果

坂元先生の講演から、東北地方（特に、東北北部）と九州との観光振興の取組の差についての現実を知ることになり、エコツーリズム等のニューツーリズムについても、これまでのように個々別々に取り組んでいては、ますますその差が広がり、観光客が減るばかりでなく、地域づくりや地域の活性化の面からも遅れ、集客的には魅力に乏しい地域になってしまうという認識を持つようになったことから、阿蘇の取組を参考にいろいろと連携の動きが生まれ、加速していくものと考えられる。

一方、大木先生の講演からは、火山国である日本の自然の特徴や素晴らしさを知ることができた。このことにより、ともすれば、近視眼的になっていた地域の紹介についても、よりグローバルにとらえて、専門家の知見をもって紹介できるようになれば、観光振興や地域振興の観点及び地域資源の保全活用にも資することができると認識できた。

今後、岩手山や秋田駒ヶ岳、八幡平の大自然の環境保全と資源利用について、広域的なツーリズム連携の動きとあわせ、観光についても、地質学者、火山学者、植生や生態系の専門家、景観の専門家等、多様な知識を有する人材が係わる気運が高まり、これまであまり紹介されてこなかった火山としての魅力や資源性について情報発信を行うことができるとともに、資源の保全と活用が進むと期待される。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

阿蘇、桜島という九州を代表する有名スポットとそれら火山をシンボルとする地域で展開される観光振興は、九州という土地柄や観光にかける地域性等正直言って、岩手山地域が参考にするには、差が大き過ぎるかも知れないが、その阿蘇、桜島で学ぶべき大きな点は、坂元氏、大木氏の両リーダーともに、いわゆる観光業者でなく、地域の繁栄や元気づくりに意欲を見せるシンクタンクであり、学識経験者であり、地域の魅力を引き出すことで観光振興につなげていることである。

日本に多く見られる従来型観光地は、個々の施設経営者がそれぞれ思い思いに施設を大きくし、収容能力を高めることで誘客に務め、その結果、地域としては調和のとれていない魅力に乏しい場所になってしまったということであるが、阿蘇地域では、黒川温泉に例をみるように、全国に先駆け、寂れかけた観光地を地域全体としての魅力が高まるよう景観や雰囲気をつし、調和を考えながら、魅力的な観光地に再生させていった事例がある。

とりわけ、寂れた阿蘇の商店街が訪れる観光客のために、通りに木を植えて緑豊かで魅力ある景観・雰囲気に変身・再生させた場所（通り）がタウンツーリズムの人気スポットになったという事例は、鶯宿温泉等岩手山に近い雫石町の温泉地で参考にしたい事例である。

また、桜島周辺（鹿児島錦江湾地域）で取り組まれているジオパークや鹿児島検定の事業は、今まで観光振興を考える上であまり認識されていなかった「大地の成り立ち」という大きなストーリー（物語）を地域住民に理解してもらい、住民全員が来訪者に地域を紹介できるようにするための方法ということを紹介してもらい、今後、全国に誇る名峰火山の岩手山や秋田駒ヶ岳、八幡平を有するこの地域でエコツーリズムを進める上で参考になった。

●その他感想

大木公彦先生は会うまでは、火山学者、地質学者ということで、難しそうな学者（大学研究者）をイメージしていたが、実際に会うとその風貌と人柄にとっても好感を持つことができた。

坂元先生、大木先生には、これを機会に同じく名峰火山をシンボルとする地域として、今後も交流を続け、エコツーリズムを進めるにあたり、ご指導ご助言ご協力をいただきたいと願っている。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

岩手山は南部富士と呼ばれる美しい山です。その裾野は広く、活火山のめぐみを受けて酪農や農業が行われています。岩手山では変化に富む火山地形が見られ、広大な自然林が広がっているためにスキー、登山、ハイキング等に多くの人が訪れ、観光地として有名ですが、最近は山並みの道路をドライブすることが主流となり、滞在型の観光客の減少が続いているようです。このような中で、岩手山の南麓では、小岩井農場を核とした岩手県教育旅行、1) ガイド付きツアー「宮沢賢治と小岩井農場物語」、2) 岩手の三大文化巡り、3) 三陸復興支援と小岩井農場の旅～防災教育と環境学習、が行われ、更に農業体験を取り入れたグリーン・ツーリズム、エコツーリズムの活動が始まっているようです。岩手山やそれに連なる山々の麓に広がる農村部の豊かな自然環境を保全し、その自然環境を活かすさまざまな取組が模索され、実行されつつあります。

●アドバイス（講義等）の概要

一般に、エコツーリズムの活動を行う場合、景観や人々の暮らしを中心に、その地域の自然、歴史、文化を紹介することが多いのですが、その地域を含む大地の成り立ちや、大地そのものの恵みを紹介することは少ないような気がします。盛岡市や雫石町で行った会議や講演を通じて、岩手山を中心にエコツーリズムの活動を行う人たちが、まずは岩手山という活火山がどうして盛岡の北東方に存在するのか、その理由を地球規模の視点で捉える必要があることを述べさせていただきました。日本には岩手山のような活火山が110も存在するのは何故か、太平洋プレートやフィリピン海プレートが沈み込む海溝とマグマの発生する場所、マグマが上昇して形作られる火山帯との関係を示しながら説明致しました。更に、火山は災害をもたらすこともあるが、それを上回る恵みを得られることを知っていただきました。火山活動の産物である温泉や鉱物資源、ミネラルの豊富な地下水、その水を吸収して育つ植物や農作物等、私たちの生活に多くの恵みをもたらします。火山の周辺に住む人々の全員が大地の成り立ちを知り、その大地からの恵みをいただいて生活していることを実感することがエコツーリズムの取組にとって大切だと思います。その上で火山と暮らす住民全員が自分の住む地域の素晴らしさを来訪者に伝えることが重要だと思います。世界的に見れば火山の存在する場所は極めて少なく、火山の無い国の人々にとって活火山そのものだけでも魅力的で観光の対象であるはずですが、その活火山の魅力をもっと引き出すためには、活火山と共存する人の暮らしをアピールする必要があります。私たちが大地に活かされていることを、童話を通じて伝えようと試みた人に岩手の生んだ宮沢賢治がいます。宮沢賢治の童話を教材として取り入れている学校は日本中にあります。宮沢賢治がイーハトーブ（ドリームランド）とした岩手の皆さんが、童話の読み聞かせや勉強会等をエコツーリズムのプログラムに積極的に取り入れることによって、多くの方が岩手を訪れ、大地の成り立ち、火山の恵みや人の生き方を学ぶことができる機会を得ることにつながります。

講演では鹿児島大学総合研究博物館が行っている「かごしまフィールドミュージアム」の取組について紹介しました。地域に住む人たちが中心となり、自治体が協力して地域の貴重な文化財や資料を掘り起こし、それぞれの分野に関連する鹿児島大学のフィールドミュージアムアドバイザーの先生がアドバイスを行うプロジェクトです。更に自治体や企業の支援を受けて、それらの貴重な文化財や資料を保存し、教育に活用していただく取組を行っています。特に、博物館へ持ってくることでできない地層や遺跡の現地保存に力を入れ、それらを国県市町村の文化財に指定していただく努力を行っています。岩手山の景観に加え、大地を形作る地形地質、動植物、岩手山の山麓に人が住むことによって生み出された歴史文化遺産の掘り起こし、それらの意味付けを自治体の支援を得ながら、大学や博物館の研究者の協力を得て進めて行くことがエコツーリズムの活動を深めるために必要であると提言させ

ていただきました。岩手大学には博物館があり、岩手県立博物館には17名の学芸員、12名の解説員がおられます。多くの県立博物館では学芸員資格を持たない小中高の教諭が数年間、博物館に勤務していることを考えれば、岩手県立博物館との連携は重要だと思います。

講演の最後に、桜島のジオパークへ向けての取組について述べさせていただきました。住民・自治体・専門家のそれぞれが自分の役割を理解し、連携することが不可欠ですが、あくまでも住民が主役で、自治体と専門家は住民の意識、知識が深まるように支援することが成功への近道だと思います。特に、専門家はアドバイザーに徹し、地域住民自らが育っていくことを補助する仕組みを作ることの重要性を述べさせていただきました。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

岩手県雫石町では小岩井農場を中心に、活火山とそこに住む人たちの生活を理解していただくための取組が行われています。活火山である岩手山とその山麓地域は、環境教育や防災教育につながる素晴らしいエコツーリズムを構築する最適な場所であると思います。それは岩手が生んだ宮沢賢治が愛し、農民と自然との共存を模索した場所であるからです。美しい岩手山と裾野に広がる牧場や農地の景観を多くの日本人に見ていただきたいと思います。そして都会に住む人々が一次産業を営む地方の人々に支えられていることを、エコツーリズムの取組を通じて実感していただきたいと心から願っています。岩手山を愛する雫石町の皆さまの活動がますます発展していくことを祈念致しております。

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

東北の名峰「岩手山」は、南部富士と呼ばれる秀麗な火山峰で、標高 2038 メートルである。古くから山岳信仰の対象であった山で、巖鷲（がんじゅ）山とも呼ばれた。岩手山周辺山麓に広がる牧場や水田、畑地帯からも雄大に望むことができることから、岩手県のランドマークになっている。また、激しい火山活動を繰り返りながら成長した巨大な成層火山であることから、変化に富んだ火山地形が見られる。岩手山を源とする葛根田川（北上川の支流）の源流域から秋田駒ヶ岳、八幡平にかけての山地には、世界遺産「白神山地のブナ林」にも匹敵する広大な天然林域が広がっている。

岩手山は、日本を代表する美しい名峰であり、山岳としての雄大な眺望や大自然とあわせて、その山麓には緑豊かな農村地帯が広がっているが、観光といえば、従来型の冬のスキーや登山・ハイキング、山岳ドライブが主流で、観光客の減少傾向が続いている。

近年、岩手山の南麓地域では、小岩井農場でのバスツアー（小岩井農場物語）をはじめ、農業体験を取り入れた教育旅行等グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、ニューツーリズムの動きが見られるようになり、NPO や地域住民、学識経験者が連携して、岩手山の美しい眺望や秋田駒ヶ岳、岩手山、八幡平と連なる火山性山岳とその山麓に広がる農村地帯の生物多様性豊かな自然環境を保全・活用した環境保全型の観光により地域の活性化を進めたいという活動が始まっている。

●アドバイス（講義等）の概要

阿蘇地域（1市6町村）は、10年前（平成14年）に観光客が1800万人も訪れているのに、商店街は寂れ、消えゆく農村集落も出始めていた。また、観光は有名スポットを巡り、温泉に入り、物産館でお土産を購入するといったパターンが主流だった。このままでは、近未来において、阿蘇の魅力や暮らしの継続ができなくなる危機感を抱いていた。

そこで、阿蘇の自然や歴史・文化を案内する自然案内人協会を平成15年に立ち上げ、この年の11月には全国エコツーリズム大会 in 阿蘇を開催し、エコツーリズムに拍車がかかった。また、観光客が訪れていなかった商店街や農村集落は、それぞれの地域の魅力を掘り起こし、その上で商店街は商店の商品を見直し、夏は商店街が日陰になる成木を植え、食べ歩き散策ツアー等の提供を行った。農村集落は案内人を育成し、食や宿泊等、その地域の農家民宿、農家レストラン、農業体験等を活用し、いずれも面的な展開ができるように地域づくりを行ってきた。訪れたお客様が地域に滞在し、地元の人と交流する滞在交流型の旅のスタイルの推進である。

こういった取組を、地元の人たちを主役にした動画サイトでの紹介を交えて説明した。観光から地域を眺めるのではなく、地域づくりを進めながらツーリズムにも取り組み、人が訪れることで地域も再活性化しようという試みである。しかも、農村のグリーン・ツーリズム、商店街や温泉街のタウンツーリズム、自然や歴史・文化を楽しむエコツーリズムを地域で相互に関連づけ、阿蘇カルデラツーリズムとして一体的に取り組んだ。

その結果、阿蘇地域内に32の面的な滞在交流のツーリズム地域ができあがり、その地域をパビリオンに見立て、阿蘇地域全体を博覧会場に設定した阿蘇カルデラツーリズム博覧会（阿蘇ゆるっと博）を開催した。これは、2011年3月12日からスタートした九州新幹線鹿児島ルートと合わせて、2012年3月31日までの1年間にわたり、阿蘇地域の滞在交流型のツーリズムを広報・誘客する取組でもあった。この取組は、イベントではないので、現在も地域づくりとツーリズムは、一般旅行者にも観光商品にも活用され、阿蘇カルデラツーリズムとして続いている。これらの取組から分かるように、観光業者でなく地域住民が主体となって、自慢できる地域、お客様に訪問先として選ばれる地域づくりが観光になるような取組を進めることが、岩手山周辺でのエコツーリズムにつながっていくのではないかと。ツーリズムは、単なる体験プログラムやツアーではなく、地域づくりもともない地域の再活性化もあわせて行うことが大切である。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

岩手山周辺地域は、岩手県立大学のキャンパスや網張ビジターセンター、安比高原自然学校、NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク、小岩井農場等、数多くの施設や団体が活動している。こういった施設や団体は、訪問者に対して地域に関する独自の案内や体験プログラムを提供しているが、相互に連携した情報の提供やそれぞれの体験プログラムを組み合わせ、地域に滞在していただく工夫が行われておらず、お互いの施設や団体は、知っているものの、ばらばらに存在している状況である。

従って、岩手県大が学（地域の価値付け）の面でサポートし、安比自然学校は自然の中にある価値を創造した春夏秋冬のエコツアー提供や地域経済の衰退を危惧した取組を進める。しずくいし・いきいき暮らしネットワークは田植え・収穫・畜産・文化・民泊等の体験を教育旅行から、一般の人々の気軽な参加もできるような取組に展開する。小岩井農場は歴史や文化に基づくエコツアーと農場周辺のツアーと組み合わせる。これらの取組と地域の持つ特性や魅力を最大限引き出し、コンセプトを設定して、岩手山周辺地域に滞在しながら、時間・空間を楽しめるような仕組づくりが必要である。

そのためには、今回の岩手山名峰景観ツーリズムのフォーラムをきっかけにして集まれた皆様で、まずは協議会を立ち上げて、地域連携の具体的な取組について話し合う機会を作ることが重要である。また、施設や団体が位置する地域の再活性化についても協議し、滞在交流の場としての地域づくりを同時に行うことも必要である。また、岩木山のエコツーリズムフォーラムに先立ち、磐梯山エコツーリズムシンポジウム参加アドバイスと取組の視察もおこなった。

福島県磐梯山は、東北地方でも有数の名峰火山で、猪苗代湖をはじめ五色沼や桧原湖等の大小 300 もの湖や沼が麓に広がっており、エコツーリズムの先進地域でもある。

特に、①自然景観の多様性の活用、②会津藩等独自の歴史の活用、③自然と人が共生してきた里山の文化の活用等地域に価値をつける取組が進められている。磐梯山ジオパーク協議会や NPO 法人こどもの森ネットワーク、裏磐梯エコツーリズム協会等の話を伺うと、それぞれが独立した取組を行っている。

しかし、磐梯山ジオパーク協議会が設立されたことにより、それぞれの団体の強みを活かし、連携が強まった経緯もあり、今後、岩手山周辺も広域的な連携を進める中で、今回の名峰岩手山エコツーリズムフォーラムを中心となって開催した NPO 法人しずくいし・いきいき暮らしネットワークが、このフォーラムをきっかけにして、環岩手山周辺地域の広域連携エコツーリズムを推進する素地ができた。また、磐梯山や岩木山、鳥海山等東北における名峰景観ツーリズムとしての視点の共有化も図られた。